



第68号

●主な記事

平成27年度同窓会総会開催
支部・同期会・OB会により
母校近況・寄贈図書

平成27年12月10日発行

一般社団法人 長野高等学校金鷄会

事務局 ☎(026)235-3822

発行人 鷺澤 正一

編集人 桃林 聖一

URL

<http://www.kinshi.org>

E-Mail

dousoukai@kinshi.org

長野高校SGHへの募金、700万円になりました。

会長 鷺澤正一

長野の地も日々寒さを増し、冬の訪れも近づいてまいりましたが、同窓生の皆さまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今年度、春の「日新鐘」にて、長野高校SGHの事業支援の教育基金創設の募金をお願いしたところ、思いもかけず多数の同窓生の皆さまのご支援を賜り、現在のところ、当初の目標金額500万円を大幅に上回る700万円にも達する募金額になっております。年配の方から今年卒業したばかりの若い世代まで幅広く1,300名以上の方から募金が集まりました。中には100歳にもなられる大先輩の方からの寄付や、昨年亡くなられた同窓生の奥様から50万円の寄付もあり、また回期や職場でまとめたの寄付もありました。長野高校に対する全国の同窓生の皆さまの熱い思いに、ただ感謝するばかりです。ありがとうございました。

学校側で今後の使い途について精査したところ、ノートパソコンの購入やワイファイ等ICT環境の整備や来年度から実施する予定の善光寺サミットの経費、県内外への生徒の派遣費や旅費等、また5年間の指定期間終了後の学校独自のグローバル教育の推進まで含めて、870万円程の経費が見込まれるようです。不足分については、土曜セミナーなどを運営している日新館事業にPTAや

同窓会で拠出している現金があり、その中から200万円をSGHの支援として繰り入れていただけることになりましたので、募金額と併せて計900万円ほどになり、十分今回の事業支援を達成する事ができそうです。

「いただいた募金については、SGH事業の生徒の活動に大切にに使わせていただきます。同窓生の皆さまにくれぐれもよろしくお伝えください」と学校側より感謝の言葉をいただいております。

同窓生の皆さまの熱いご支援に心より感謝して、お礼の言葉とさせていただきます。



購入したノートパソコン（Mac）で学習する生徒

来年度からの同窓会費値上げのお願い

同窓会費については1980年以来、年額2,000円をお願いしてまいりました。ここ数年、同窓会の会計が厳しくなってきたり、事務局では、人員を減らしたり、独自財源などを工面したりしながら運営してまいりました。来年度は、会費納入率50%以上を誇っている高6回の皆さまが会費免除年齢に達し、以降続々と高納入率の学年が引退されていきます。やむなく来年度より、年会費を3,000円に値上げさせていただきたいということで、6月27日に開かれた長高金鷄会学年幹事会に審議をお願いし承認

を得て、同窓会総会でも了解を得たしだいです。現在、全体の会費納入率は20%ほどですが、今後年会費3,000円を納入していただくことにより会費収入が増加しますと余裕を持って同窓会事業を運営していくことができるようになります。また、余剰金の積立をして4年後に迎える創立120周年の事業に少しでも備えることができるのではないかと考えております。まことに恐縮ですが、来年度よりの値上げにご理解と、これまで以上のご協力を皆さまにお願い申し上げます。

学年幹事会・同窓会総会開催

期 日 平成27年6月27日(土)

場 所 長野市県町 ホテル国際21

出 席 者 学年幹事会 104名(委任状を含む)

◇学年幹事会議事

- 第1号議案 平成26年度事業報告・決算報告承認・監査報告
 第2号議案 平成27年度事業計画・予算案承認
 第3号議案 平成27・28年度理事・監事の選任
 第4号議案 長野高等学校教育設備改善のための募金趣意書承認
 第5号議案 長野高等学校金鶏会会費値上げの件

◇平成26年度事業報告・平成27年度事業計画

Ⅰ 実施事業

1. 会館維持運営事業 2. 旧制中学校資料収集事業

Ⅱ その他事業

1. 国際理解推進事業 2. 市民大学開催事業
 3. 貸室事業 4. 池田満寿夫ギャラリー事業
 5. 同窓会事業
 (1) 会報「日新鐘」の刊行
 (2) 支部・同期会・OB会への協力
 (3) ゴルフコンペ (4) 在校生への援助
 (5) 購買 (6) 日新館事業 (7) 結婚相談室

Ⅲ 総会、理事会、各種会議の開催

平成27年度の事業計画は平成26年度に準じる。

◇同窓会総会

当番回期 高32回・高44回・高56回

◇学年幹事会・理事会報告

◇記念講演会

演 題 皇居の内側から

講 師 宮内庁侍従(侍従職務主管) 池田憲治氏(高32回)

◇懇親会

◇平成26年度決算・平成27年度予算

○収入の部(単位:円)

科 目	平成26年度決算	平成27年度予算	備 考
正 会 員 会 費	9,740,000	10,000,000	
準 会 員 会 費	2,365,200	2,338,000	
特別会員会費	12,000	20,000	
寄 付 金	824,000	300,000	
貸 室 料	2,900,759	2,800,000	
市 民 大 学	65,000	150,000	
雑 収 入	6,425,394	200,000	保険・利息・購買
貸付金返済収入	800,000	800,000	長野高校PTA
そ の 他	358	400	
前 期 繰 越 金	3,100,469	3,902,804	
合 計	26,233,180	20,511,204	

○支出の部(単位:円)

科 目	平成26年度決算	平成27年度予算	備 考
会館運営事業	9,921,971	4,550,000	給料・通信費・補修費等
旧制中学資料収集事業	0	30,000	
国際理解推進事業	277,760	200,000	生徒アメリカ国連研修
市民大学事業	91,879	134,000	
同 窓 会 事 業	6,164,983	6,070,000	会報発行費・教育奨励費等
管 理 費	4,873,567	4,821,000	人件費・光熱水費・火災保険等
退職金積立	100,216	100,000	
会館設備補修積立	100,000	100,000	
什器備品購入支出	800,000	0	学習室・大講義室エアコン
予 備 費	0	50,000	
次 期 繰 越 金	3,902,804	4,456,204	
合 計	26,233,180	20,511,204	

※平成26年度の雑収入、会館運営事業支出が多いのは、雪害による保険金収入があり、金鶏会館屋根の大修理を行ったためです。

母 校 近 況

「長野高等学校教育設備改善のための募金」をはじめとするSGH事業ご支援への御礼

SGH事業推進係 白鳥美香



プレゼンテーション会場

本校は昨年度、文科省より、将来国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を目指す「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」全国56校のひとつに選ばれ、SGH事業に取り組んでまいりました。SGH校は今年112校に増え、長野県でも上田高校が新たに指定を受けたように、この事業は確実に一つの流れを作りつつありますが、ICT機器の活用や海外研修を含む事業は従来より多くの費用を必要とします。窮状を聞いた金鶏会の皆様により「長野高等学校教育設備改善のための募金」が

立ち上げられ、多くの皆様から篤志を寄せていただいたこと、心より感謝申し上げます。早速、ノートパソコン12台がLL教室に配備され、生徒の英語の授業や課題研究で不可欠な存在となっている他、参加費のかかる活動への補助などにも使われ、多くの生徒のSGH活動を支えています。

また、この募金の他にも、米国リーダー研修をはじめ、金鶏会からは様々な生徒のSGH活動を支援していただいております。そのひとつに、9月にカナダ、リッチモ

ンドで開催された、Mウェーブ・長野市によるOMN(オリンピック・ミュージアム・ネットワーク) 加盟申請のためのOMN総会への間島晴輝、中島優里の参加があります。生徒の報告を一部掲載いたします。

2年6組 間島晴輝

自分たちの出番は会議1日目に回ってきました。場の雰囲気はまさに国際会議といった感じで、世界中から人が集まってきたので多少なりとも緊張はしましたが、準備にそれなりの時間をかけたことと、座ったまま発言するという形式だったことから、自信をもって話すことができました。発表の後、チェアマンが長野の加盟を認める趣旨のことを述べた時には、初めて形だけではない、意味のあるプレゼンをしたという実感が湧きました。その後各国の人から感想を聞いてみたところ、内容が確実に伝わっていたようだったので良かったです。

現地のオリンピック関連施設の視察や公式の食事会のときなどには、各国の文化の比較や日本の学校の話などで盛り上がりました。英語が母国語である人が少なかったためだと思われそうですが、口調は遅めで、円滑な意思疎

通ができました。また、ともに会議に出席した日本オリンピック委員会や日本スポーツ振興センターの方々との会話を通して、国際社会という現場で活動することについて興味深いご教示をいただきました。自分の進路について、大きな参考になったと感じています。(中略)

また、これは最も重要なことですが、組織の発展についての議論の際、アジア勢の大半は黙って聞いているだけでした。これからの時代、様々な能力を持ち一人になる勇気をもつ人材を育成したところで、さほど影響のない民間レベルのプロジェクトの話なら良いかもしれませんが、国際社会を実質的に動かしていくにあたり、会議などの場で堂々と発言し、欧米諸国と対等に渡り合っていくための実力と度胸を養わなければ、グローバル化は我々にとって不都合なことになってしまうと思いました。

今回の経験は大変貴重なものでした。機会をくださった土屋龍一郎さんと、資金面での援助をしてくださった方々、またすべての関係の方々に感謝しています。

● 硬式野球班 近況ご報告

顧問 宮崎俊彦

同窓会の皆様には、日頃より温かいご声援をいただきまして、誠にありがとうございます。母校に赴任して5年目、学校の看板を背負って立つクラブでもありプレッシャーが大きいのですが、その分やりがいもあります。夢の「甲子園」出場を目標に、生徒と日々汗を流して頑張っております。

硬式野球班は、この春6名の1年生新入部員を迎え、40名でスタートしました。今夏行われた第97回全国高等学校野球選手権長野大会では5年ぶりにベスト8、秋の第133回北信越地区高等学校野球長野県大会ではベスト4という成績を収めることができました。特に夏の選手権長野大会では、昨秋・今春と県大会出場を逃していたチームが、3年生を中心に良くまとまり、最後の最後に本当の強さを見せてくれました。日々の練習に真摯に取り組み、ミーティングを重ねて創意工夫した生徒達が底力を発揮してくれました。とりわけ3年生部員の逞しい姿は印象に残ります。秋の好成績は、この夏の経験や自信が繋がったものだと思います。秋の公式戦終了後には、OBの方に「長野高校らしい試合がみられた」と言っていただくことができました。チームとしての形が

定まり、粘り強く戦えているということでしょうか、指導に当たっている者とすればうれしい限りです。この夏・秋と公式戦を多く戦えたことで、自分たちのレベルや課題が明らかになりました。夢の実現には、寒い冬場のトレーニングが重要になります。十分に鍛えて、来年さらに躍進したいと考えております。引き続き、応援をよろしくお願いいたします。

話は変わりますが、野球班ではこの春うれしい事件が起きました。野球班の卒業生4名が1年間の浪人生活を経てではありますが、東京大学にそろって合格するという快挙を成し遂げてくれたのです。浪人中でも4人が互いに励まし合い、皆が合格してくれたこと、本当にうれしく思いました。その4人のうち、川口寛弥君は東京大学でも野球を続け、秋の東京六大学リーグ戦で初登板も果たしました。野球班と同様に応援していただけたらありがたいです。



支部・同期会・OB会だより



高9回 東京北ラス会定例会

5月7日(木)、KKRホテル東京において、平成27年度東京北ラス会定例会を開催した。今回は、旧年度中に同期一同ほぼ全員が喜寿を迎えた記念すべき年にあたり、長野からの参加者10名の他、遠くは山口県からの参加者も得て総勢59名の会員が出席した。

定例会に先立ち前山階鳥類研究所所長、兵庫県立コウノトリの郷公園園長の山岸哲君による、「鳥を見て人を知る」～鳥も浮気をするのか～、と題する講演を聞く。モズの一夫一妻による子育てと婚外子の存在の実証研究と、その行動生態学的解釈の話。人類の一夫一妻制の持続不可能性、法社会学的議論にまで話は及んだ。

進んで、定例会は参加者一同元気はつつつ、和気藹々、旧交を温めること約2時間の年齢を忘れた楽しい会となった。

帰り際、遠藤誠之君総合企画による「喜寿 記念の付録(おまけ)」がお土産。十一面観音像(和田忠明君画)、喜寿曼荼羅(遠藤君画)、別役実君の童謡詩「一本の木、一軒の家、一人の息子」などなど、その内容豊か。

一同、来年の定例会での再会を約して散会した。(和田弘正)

高3回 入学70周年記念

私達は昭和20年、戦中最後の1年生でした。三大校是とされた「和衷協同」「盡忠報国」「質実剛健」の大扁額の下、「海行かば」の荘重な校歌に迎えられて入学。当初は午前3時間授業。午後は軍事教練と作業の連続。校庭を畑に変え、農繁期の勤労奉仕、2時間余も歩いて山の開墾。夏休みも返上して登校、8月13日の長野空襲、終戦…。戦時下の苦難と悲痛な反省、そして学制改革、旧制中から併設中学校・新制高校へと計6年間同じ校舎に在学した仲間がほとんどの学年です。

今年は入学から70年目、また戦後初の修学旅行に出発した日にも合わせて同期会を開催しました。6月5日(金)、会場は上山田温泉ホテル清風園、参加者は総勢32名。懇親会に先立ち、幹事長今村哲君から「今年は節目の年、あるを尽くして盛大な最終回に…」の挨拶。東京の小幡和夫君は新年会ほか、京都の小林博君は京阪神地区の近況報告。引き続いて、恩師西沢久宣先生と10名の担任の先生方、昨年の同期会以降の8名を含む全169名の今は亡き同期生の諸君に黙祷を捧げ、幹事新津幸男君の司会で懇親会に移りました。



飲むほどに酔うほどに「それ若き日の六春秋…」と「曉鐘の歌」のとり「君が憂い」「吾が喜び」の世界が展開。そのさなかに倉嶋康君ほかから「来年も…」の声があがり、5・6組への引き継ぎの儀が行われました。

翌日は鯉西季節小屋で川魚料理のフルコースを楽しみ、次回も元気でと再会を約して散会したことでした。

入学70周年を記念し、先に提唱された「金鶏会高校教育基金」へ会費の一部を寄託しました。(和田 勇)

高32回 同窓会総会・同期会

去る6月27日(土)、平成27年度金鶏会総会が開催されました。本年度の総会当番期は、高32回、高44回、高56回でした。昨年の高31回の先輩方から完璧な運営マニュアルをいただき「なるはや(なるべく早く)で幹事会を立ち上げ、ヤマトホールディングスの山内社長に匹敵する講演者を見つけること」とのご指導をいただきました。そこで昨年の総会終了後すぐに全9クラスから2人ずつ派遣していただいた幹事会を立ち上げ、実質6回に及ぶ準備会を経て当日に臨みました。講演者には宮内庁侍従をお務めの池田憲治氏に依頼して、なかなか知ることができない特別な職場について興味深いお話を聞くことができました。職業柄もしもドタキャンされたときには、講演担当係の小坂壮太郎信濃毎日新聞社社長が責任を取るとの二段構えが功を奏して、当日は200人以上の来場者をお迎えすることができました。

総会懇親会後に開催した32回生同期会に恩師も含めて120人を超える同窓生を集めることができたのも、卒業20周年同窓会の際に作り上げた同窓生90%の連絡先を網羅していた名簿が抜群の威力を発揮しました。久しぶりに懐かしい顔との交流を楽しみ、仕事上聞き



高32回

及んでいるけれどもお互いにまったく覚えていない同期生とこの機会に名刺交換をするなど有意義な時間を過ごせました。

最後に、市内での同期会を毎年一度、全32回同期会を5年に一度開催することを満場一致で決議して、それぞれクラスごとの二次会へと繰り出しました。事務局の桃林先生、池田さん、何より完璧な準備を作り上げた幹事会の皆様にご心より感謝申し上げます。

(土屋龍一郎)

高10回 第27回山々会総会

山々会は、回を重ねて第27回総会を7月3日(金)、ホテルグランドパレスで迎えた。これだけ連続して開催できたのは笠原忠興会長の深い思慮と使命感に負う所が大だ。おかげで卒業して57年になる今日でも心はずむ人間交流の磁場である。出席者は長野から6名の参加を得、53名。

本年は当番幹事の発案により、①北信濃が生んだ高野辰之、中山晋平の業績を讃え、その唱歌・童謡を全員で合唱する。②各人の近況報告を休止し会員相互の歓談の時と場を増やす。司会の中村直靖君はこの点に配慮し進行する。峯村公雄君による物故者法要で76名のご冥福を祈り黙祷。会長の挨拶で、小林二郎君が春の叙叙で瑞宝中綬章を受章との朗報に接し、全員で喜びを共にした。長田信一君の会計報告、上松恭一君のバイオリン独奏「愛の喜び」、乾杯の音頭は札幌から駆けつけてくれた小林喜六君。食事、歓談開始。各食卓で楽しい雑談の花が咲いているようだった。この間を利用してクラスごとに幹事が出席者を紹介。続いて中嶋が「これが日本の故郷の原風景だ」という一枚のカラーコピーの背景説明。次いで今回のキーパーソン久保博幸君が演奏曲目を軽妙に語り、ハーモニカ伴奏、佐伯昂士君のピアノ伴奏も加わり合唱、郷愁の世界に……さらに久保君の独奏に聞き入る。鶴田哲郎君の閉会の挨拶、長高応援歌合唱、

恒例の須田莊一郎君のリードで校歌、信濃の国を斉唱し、エールの交換、写真撮影、散会。張りのある声の交響が耳に残っている。

(文・中嶋公明、写真・河野昭一)

近畿長高金鶏会 総会・懇親会

7月4日(土)、近畿長高金鶏会総会・懇親会開催される。

長野より、小川幸司教頭先生が参加される。先生は世界史の専門家で、大阪大学の先生とも交流があり再三来阪されている。大阪城公園でバードウォッチングも楽しまれている。長高はスーパーグローバルハイスクールで、今年は2年生が台湾へ修学旅行に行き、海外との交流を深めるとのこと。世の変遷を痛感。母校もグローバル化の波を受けて雄々しく船出している感、強くする。

総会は、小林会長の議事進行と満場の拍手で議事承認。懇親会へ。初参加の高19回、有岡隆夫さん。出身は大阪、長野は妙高に住み、長野高校まで通ったとのこと。

以降は、マイクを持ち、テーブルごと近況等語るは語る。

高15回、米倉徹さん。ついに念願の六甲山1,000回登頂達成。

高18回、今井稔夫さん。7年に一度の善光寺御開帳と戸隠神社の式年遷宮に帰郷し、宿願を果たした。

高20回、馬場文明さん。関電30余年、今ポートアイランドに住む。何かと話題の理化学研究所やワールド、アシックスの本社に近い。山登りが好きで、昨年ユングフラウ登頂と本格的だ。

高14回、熊井襄さん。米国最高裁の同性婚を認める判決につき一言。常識は変わる。常識を疑ってみる必要あり、と意味深な話をされる。

高12回、亀田洋子さん。紅一点。相変わらず世界をまたにかけ飛び回っている元気な先輩。すでに100カ国以上。あとはイスラム国など渡航禁止の危険度最高位の国を残すのみ。などなど、話が飛び



高10回



近畿長高金鶏会

交う。皆、多士済々。

校歌「山また山」を円陣を組み合唱し、次回の再会を期し、一同別れの途に就く。
(高23回 野池 徹)

また、「北七俳句会」も当日午前11時から、淵之坊で8名の参加のもと開催された。
(宮原弥曾彦)

高7回 卒業60周年記念北七会定例総会

平成27年7月11日(土) 午後1時30分、総会に先立ち事務局の善光寺淵之坊へ集合。午後2時30分より大本願鷹司誓玉上人導師のもと、恩師8名、会員102名の物故者法要が、遺族6名、会員75名の参列のもと営まれた。法要終了後、大本願前で記念撮影ののち、ホテル犀北館へ移動。

総会は坂野毅君の司会で進行。若麻績佑孝会長の挨拶、廣岡男也副会長の事業報告、宮澤彰副会長の会計報告、柳澤正則税理士の監査報告と議事は滞りなく終了した。

会長挨拶で、記念事業として会報の過去10年分の合本を記念誌として発行したことを報告。さらに、母校が文科省のSGHに指定され、その事業推進のために教育基金が設置されたことを踏まえ、会より記念として10万円の寄付の提案がなされ満場一致で賛同した。

懇親会では、60年間のそれぞれの思いと感慨を噛みしめながら歓談。その間、有賀敏文君のピアノ演奏、桑原宜彦君の独唱に喝采。有賀君の伴奏で応援歌、校歌を斉唱して閉会を迎えた。

なお、終わりにあたり60年間の会の運営の源は、若麻績会長の人徳とリーダーシップの賜として会員一同、記念品を添えて感謝状を贈呈。今後も60年前のご縁の絆を一層大切にしていこうと一同、意を新たにした。

吹奏楽班甲子会

17回生卒業50周年～甲子会懇親会開く～

吹奏楽班甲子会は7月25日(土)夜、長野駅前の「油や」で毎夏恒例の懇親会を開きました。今年の出席者は10人とやや少なめではありましたが、先輩の「飛び入り」参加という予想外の出来事もあり、例年通り充実した集いとなりました。

会は清水さん(高17回)の進行でスタート。はじめに代表幹事の塚田さん(高15回)が、「暑い夏がくると、(昭和37年の甲子園大会の際一夜を明かした)寝苦しい体育館を思い出す。お互い体には十分気をつけて毎年元気な姿を見せてほしい。高校時代に戻った気持ちで楽しくやろう」と挨拶。続いて遠路鎌倉から駆けつけた武井さん(高15回)が「歳をとると昔の仲間が一番いいね。今日も騒がせてもらいます」と述べて乾杯の発声、1年ぶりの再会を祝しました。以降はフリーの歓談タイム。近況を語り合い、青春の日々を懐かしみつつ、和やかなひと時を過ごしました。折しも高校野球長野大会の真っ最中。今年は母校野球部が5年ぶりのベスト8進出を果たし、2日前に小諸商戦を終えたばかり。この試合には当日出席者の半数ほどが応援に行っており、甲子園経験のある前坂さん(高15回)の“解説”を交え、ひとしきり高校野球談議となりました。「元気なうちにもう一度甲子園へ連れて行ってほしいなあ」と誰かが漏らしたひと言は、居合わせた一同の思いを代弁していたようです。



高7回



吹奏楽班甲子会

会員の近況報告をみると、大方の人は趣味やボランティアにいそしみつつ、充実した日々を送っているようですが、さすがに「古稀」前後ともなると体の不調を訴える人も出てきています。そこで、「一にも二にも健康」とウォーキングに励んでいる人がいるかと思えば、健康のために歩いていて転倒し骨折してしまったという人もいて、まさに人生いろいろです。

そうこうしているところへ、甲子会よりさらに上の年代の轟さん(高14回)が登場。「年金バンド」で一緒に活動している内田さん(高16回)が、たまたま電話中にお誘いしたところ、わざわざ出て来てくださったというわけです。先輩を呼びつけてしまった感じで、一同恐縮するやら感激するやら。ともあれ、座はまた一段と賑やかさを増しました。当時取り上げた楽曲のこと、夏合宿や金鷄祭の思い出などなど、興味深い話も次々に出てきて完全に半世紀前にタイムスリップです。そういえば、野球の応援でジャズやラテンを演奏したのもあの頃が初めてでした。

開会から3時間ほど経過した9時近く、まだまだ話は尽きない様子でしたが、宮島さん(高15回)、武井さんの新幹線の時刻が迫る中、笠井さん(高15回)のエールと内田さんのトランペット伴奏で校歌「山また山」を高らかに歌い、名残を惜しみつつ今年の甲子会はお開きとなりました。(高17回 丸山憲司)

松本金鷄会

「第2回松本金鷄会」が平成27年7月29日(水)に松本市の梅風閣で開催されました。

前回ご参加いただいた同窓の皆さんから職場関係や同期の方を中心に情報を伝えていただき、2月の「第1回」の30名から大幅に増え、

高11回から高59回まで女性6名を含む47名の皆さんにお集まりいただきました。

開会に当たり、松本金鷄会会長、(株)市民タイムス代表取締役社長の新保力さん(高11回)からご挨拶をいただき、続いて副会長の(株)日本広告代表取締役社長、池田紀夫さん(高11回)の乾杯で開宴となりました。

ご都合によりご参加いただけなかった岩波酒造合資会社、代表社員小岩井高さん(高20回)から梅酒等の差し入れも頂戴し、時間の経過とともに会場は非常に盛り上がり、着座式の宴席が一時は立食パーティのようにさえ見えるほど世代を越えて懇親を深められていました。途中で全員の皆さんに近況報告を含めてご挨拶をいただきましたが、それぞれの時代の思い出に話が弾み、笑いの絶えないあつという間の2時間でした。

最後は、新しく幹事長に就いていただいた安曇野赤十字病院院長の中野武さん(高25回)による中締めのご挨拶のあと、応援団OBによるエールに続き「山また山」の合唱で会場が一つになり、散会を迎えました。

時代によって学び舎は変わっていても、同じ場所で勉学に励み青春を謳歌したことは、確実に世代を越えて伝統を共有していると感じたひと時でした。

この冬にも第3回を開催予定です。(高31回 正村文彦)

高22回 卒業45周年同期会

高校22回生(昭和45年3月卒)の卒業45周年の同期会が開催されました。近年は5年ごとに開催しており、今回は、お盆の帰省も考慮した8月14日(金)、長野駅に隣接するホテルにおいて総勢130余名の賑やかな同期会の開催となりました。

放送班の麻山氏の軽妙な司会により、幹事長の和田氏の挨拶の後、同期の同窓会事務局長、桃林氏から学校の近況報告、教育設備改善の募金の説明と協力依頼がありました。



高22回



松本金鷄会



高27回

物故者に黙祷を捧げ、来賓として唯一ご出席いただいた高見沢先生の乾杯の発声により開宴となりました。クラスごとにスタートした懇談の席も、いつしか入学時のクラス、出身中学校、あるいは班ごとと、その懇談の輪は広がり、会場はまさに一つに！45年前の、とある時間を共にした仲間がその当時のまま、今の時間を共有しているという、得も言われぬ雰囲気と盛り上がりの中で宴は進み、5年後の開催の提案には、一同これに賛同。締めは、応援団の中山・田野口氏の音頭による校歌斉唱とエールでクライマックスを迎えました。

今回、卒業後初めて出席したというメンバーが結構いたことも特筆すべきことでした。夢や希望をもち、多感な時期を共にした仲間や思い出はかけがえのない財産であるという想いを改めて強くし、5年後の再会を約束し散会となりました。(9組 篠原邦彦)

高27回 卒業40周年記念同窓会

平成27年8月15日(土)、ホテル国際21にて、持田明夫先生、梨本雄三先生の恩師2名、同窓生148名の出席を得て、高27回卒業40周年記念同窓会が盛大に開催されました。

同級生の連絡先を確認するなどクラス幹事が1年前から準備を重ねた甲斐もあり、また還暦を目前に(中には既に迎えている同級生も)、皆思うところがあったのか、卒業30周年の時より多くの旧友が集まりました。

当日は懇親会に先立ち、母校見学ツアーも開催され、同級生の竹ノ内先生にピカピカの新校舎を案内してもらい、また昔懐かしい南校舎(金鶏会館)や池田満寿夫ギャラリーを訪ねました。

懇親会は、佐藤生徒会長(当時)の非常に簡潔な開会の挨拶、物故者黙祷の後、持田先生の乾杯でスタートしました。最初はクラスご

とのテーブル席でしたが、いつしかクラブ活動の同窓生や、悪ガキグループの懐かしい顔を探しての民族の大移動が始まりました。

また当日は、何と持田先生の傘寿の誕生日で、サプライズのパースデケーキと花束でお祝いをしました。

最後は、高橋応援団長をはじめ元応援団員のリードにより、応援歌、「山また山」を斉唱し、梨本先生の万歳で懐かしい会は幕を閉じました。

閉会後は、各クラスでの二次会の設定もあり、三々五々夜の街に散っていく27回生でした。(同窓会幹事代表 小林 明)

高37回 卒業30周年記念同窓会

平成27年8月15日(土)、長野市のホテル国際21において、我々高校37回生の卒業30周年記念同窓会が開催されました。同期全体の会は平成21年1月の開催以来、約6年半ぶりの開催。当日は、6名の当時の担任の先生方にもご出席いただき、130名が集まりました。

司会の倉石和明君(8組)の挨拶により開会し、まずこの30年の間に残念ながらご逝去された3名の恩師と5名の同期生に黙祷。そしてご出席のクラス担任の先生方からご挨拶をいただきましたが、その際に今年春の叙勲で長野県柔道連盟会長として永年にわたるスポーツ振興へのご功労に対して旭日双光章を受章された、5組担任の笹井計知先生へ花束を贈呈し、参加者全員でお祝いいたしました。引き続き出席者で最年長、3組担任の小林芳先生ご発声の乾杯で開宴となりました。今回は本山綱規先生(2組)、小林政男先生(6組)、征矢憲先生(7組)、芳川正道先生(9組)とご健在の恩師全員にご出席いただきました。

しばらく歓談の後、クラスごとに登壇し同期生全員の「一人ひとこと」スピーチタイムとクラスごとの記念撮影。今や「アラフォー」



高37回



ならぬ「アラフィフ」世代となっている我々37回生ではありますが、会場では昔話や近況に花を咲かせ、クラス単位の同級会ではない「同期会」ならではの旧交を深め温め合う光景がありました。

現在母校のPTA副会長を務める柳澤和義君(6組)、倉田浩君(9組)から母校の教育設備改善のための募金について趣旨説明があり全員で協力を確認したところで、いよいよこの記念同窓会も大詰め。当時の応援団員の皆さんが恩師、同期生へエールを送り、応援団長を務めた霜田清君(8組)のリードで校歌「山また山」をフルコーラス斉唱。本山先生の中締めでお開きとなり、最後に出席者全員で記念撮影し散会となりました。二次会はクラスごとの「同級会」となりましたが、それぞれ盛り上がったようです。

この場を借りて、金鷄会をはじめこの卒業30周年記念同窓会の開催にご協力いただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。今後は5年後の平成32年の金鷄会総会幹事および卒業35周年記念同窓会に向け、交流を深めていきたいと思っておりますので、同期生の皆様の協力をお願いいたします。また、今回の同窓会に向け小林健雄君(3組)のご尽力によりフェイスブックに高37回生のグループを開設いたしました。今後の同期の情報交換の場としても活用できればと考えております。(幹事代表 8組 山田雅之)

当初、幹事会ではアトラクションも検討しましたが、やはり行わなくてよかったと思いました。20年ぶりに再会する仲間も多く、当時の写真や流行った曲を見聞きしながら、近況報告や当時の思い出話にまさに花を咲かせ、あっという間の楽しい時間となりました。二次会終了まで約5時間という長丁場でしたが、終始話が途切れることもなく私が思い描いていた以上にご参加いただいた皆さまには楽しんでいただけたのではないかと感じています。

また、今回はFacebook等も活用しながら、出欠連絡をWEB・ハガキ・FAXの3種類に増やし、なるべく簡素に、例年よりは(若干ですが)規模を縮小して行いました。今後の運営に対して、一石を投じられたと思います。

最後になりましたが、この同窓会開催にあたり、同窓会事務局の皆さまはじめ、幹事の方々にも快くまた積極的にご協力いただきました。感謝申し上げます。ありがとうございました。この機会に再会した同期の仲間同士が今後も交流を深め、一人でも多く生涯の友として末永く友情を育むことができれば、これに勝る幸せはありません。(学年幹事 小林賢行)

第13回管弦楽班OB・OG会

8月16日(日)、長野高校金鷄会館にて催された定例会には、歴代顧問の山本昇先生、柳沢哲先生のご参加もいただき、バイオリニストとして活躍されている桐山建志(高38回)さんの出席もあり、素晴

高47回 卒業20周年記念同窓会

高校47回卒業20周年記念同窓会を、8月15日(土)にホテルメトロポリタン長野にて開催いたしました。当日は当時の高野校長先生・担任の先生方をお迎え、たくさんの同期にご参加いただき大変盛会となりました。我々は旧校舎と新校舎の両方を使用することができた大変光栄な巡り合わせにあり、グラウンドのない高校生活でありながらも、大変充実した青春時代を送ることができたことに対し、今さらながら感慨を覚えた次第です。



らしい演奏と楽しい懇談で、すてきなひとときを持つことができました。

卒業後も演奏を続けている人、久しぶりに楽器を手にする人、私のように聴くだけの人も、お盆の時期の再会を楽しみに集まっています。今年は30数名の参加でした。高校時代は他班所属であった会員もいます。強力な助人数です。

現役顧問の水津潤先生はOB（高43回）で、今回は高校生20数名を率いて参加してくださいました。現状では全事務局員が県外在住のため、水津先生には運営にもかなり協力していただきました。

曲目は、モーツァルト交響曲29番全曲、現役生と合同で、ハンガリア舞曲第5番とStar Wars抜粋、現役生による、パーセル作曲アプデラザール組曲より。

懇親会では、いつ練習したのかと驚くようなソロやカルテットなどの曲を楽しめました。立派な演奏の後、ピザにパクつく高校生をほほえましく思いました。

戦後70年、再会を喜び合い、音楽をたのしめる日が続きますことを祈った夏でした。（高33回 中野（八田）芳子）

高5回 長野北高二八会総会

本年度の総会は9月11日（金）、ホテルメトロポリタン長野で午後12時より開催され、参加者は48名であった。総会に先立ち、宮川清副会長による記念撮影が行われて総会に入った。開会挨拶では、滝澤一喜幹事の参集への謝意と歓迎の言葉があり、続いて伊藤治通会長の近況報告、橋本浩前会長と河原悠二前副会長の計報、来年度幹事の指名があった。会務報告では、島田茂事務局長から、東京部会が3月26日、銀座において参加者28名で開催されたこと、本年度より総会を9月の昼間に開催されることの説明があった。会計報告は小林康男担当より、監査については西村直吉監事より報告された。続いて宮川清副会長の乾杯の音頭で宴会に入った。昨年の総会以降鬼籍に移った会員は、恩師1名を含め11名とのことであった。

話題の一つであった橋本浩前会長は高校時代、野球部の主将とし



高5回



高5回

て活躍し、三訓の廣岡信三監督の後就任された。当時、応援団長の横田道夫氏や斎藤秀行氏が中心になり、橋本監督の推薦が学校側へなされ、麻沼和男前校長の支援もあり、昭和57年と昭和60年の甲子園選抜大会への栄えある出場であった。この時は、橋本浩監督、梨本雄三部長、内山邦男コーチ（高7回）の健闘であった。引退後、甲子園監督として県議選に出馬し、県政に貢献され、同時に同窓会の副会長として全うされた。

◎二八会秋季ゴルフコンペ

好天に恵まれた10月5日（月）、旧大岡村の南長野ゴルフ倶楽部で開催された。参加者は15名で、東京からの参加者は2名であった。眺望の効く北アルプスに聳える、白馬の峰々を仰ぎつつの楽しい一日であった。プレイごとの酷評には、さすがのキャディさん達も大笑いであった。今回、初参加の北澤達氏は、ドクターの勧めで健康志向から健闘された。優勝は島田茂氏であった。

（学年幹事 原 哲夫）

高19回 同期会

我々高校19回卒業の同期会は「一休会」と名付けて30年近くにわたり毎年総会を開催しています。本年も去る9月19日（土）、ホテルサンルート長野東口内の「茶寮志もだ」で総会・講演会・懇親会が開催されました。

総会前に同期生の衆議院議員篠原孝君の有志による後援会も開催されました。

毎年6月ごろからクラス幹事を積み重ね、9月の秋分の日前後の土曜日を開催日としており、卒業同期生463名中、例年50名前後が集まってくれます。

同日は岡澤和秀君の司会で総会が始まり、会長となっております私北澤の挨拶のあと小林計正君の議長役で平成26年度の事業報告・決算報告、27年度の事業計画・予算案が審議・可決されました。予算案の中では母校のSGHに対する寄付の案件も可決されました。クラス幹事にはそれぞれ役目があり、久米昇事務局長は準備段階からの招集通知の発送、参加者確認等を一手に引き受けてくれました。松倉一紀幹事からは事業報告・事業計画の発表があり、土屋修一会計幹事からは決算・予算の発表がありました。山口会計監事の監査報告実施後、総会は無事終了しました。

「一休会」では毎年会員の中から講師を一人選任しての講演会が行われております。本年は柳町明敏君にお願いし「生活習慣病としてのアルツハイマー病」と題して1時間半にわたって講演をしてもらいました。

その後、小林幹雄君の司会で懇親会が始まりました。中尾順悟先生の乾杯後、和気藹々の酒席となりました。中には高校卒業以来初



高19回

めてという参加者や、兵庫県・福井県・愛知県等から駆けつけてくれた人もいました。また各地で「東京一休会」「近畿一休会」「中野上下高井一休会」「女子会一休会」等が発足し、会合が行われていることも発表されました。特に「女子会一休会」は卒業生463名中18名いた女子のうち11名が翌日集まるとのことでみんなが驚いていました。最後には恒例の校歌斉唱となり、応援団リーダーだった前澤憲雄君・土屋修一君・矢島良彰君の衰えない声量でエールが行われ、来年の開催を約して終了となりました。

なお、翌日には年2回開催されている「一休会ゴルフ会」の第59回大会が長野京急CCで開催され、14名が集ってコンペを行ったことを付記しておきます。

集合写真・ゴルフ結果等は運営している「一休会ホームページ」で同期の皆さんに公表しております。

(北澤眞一)

長中49回・高2回 2015年全国同期会

昭和19年入学の長中49回・長野高(長野北高)2回の全国同期会が平成27年9月27日(日)、この春金沢まで延伸し新設された北陸新幹線飯山駅に集合し、野沢温泉村野沢グランドホテルで開かれた。この全国同期会は平成9年に在京の幹事代表、故楠真幸君の呼びかけで、参議院議員宮崎秀樹君を励ます会を兼ねて箱根湯本で開催して以来、隔年ごとに開き、今度が10回目で32人が参加した。



長中49回・高2回

初めに地元長野の幹事代表、菅原達雄君から経過報告。次いでこの2年の物故者13人と新たに家族から逝去の通知があった4人に黙祷を捧げ冥福を祈った。次回の同期会について在京の幹事代表、上條俊一郎君から「前々回は鳩バスによる皇居内観光、前回は寅さん映画で知られた柴又観光を行ったが、次回も幹事さんに相談して魅力あるものにし、皆さんを迎えたい」との挨拶があった。

懇親会では数少なくなった戦前の軍国少年教育、民主主義教育への転換、高度成長期の担い手の全ての経験者として話に花が咲いた。

翌28日の観光では、多くは小学校(国民学校)5・6年生の

修学旅行先であった新潟県上越市の春日山城跡地、五智国分寺などを回り、ここで初めて海を見たこともあって童心に返った1日を送った。

(春原修樹)

高13回 三六会 長野



高13回

長野高校三六会は、毎年、秋は長野で、1月には東京でそれぞれ開催されています。

本年は北陸新幹線が開通し、程なく善光寺の御開帳が始まるといったタイムリーな巡り合わせもあって、当地はなかなかの賑わいと華やかさに包まれました。



高13回

さて、平成27年の標記三六会は、9月27日(日)仲秋の名月が映える山田温泉の風景館にて9組の当番で開催。参加者は総勢35名で、県内18名、県外17名。遠方組は、関西からの高田英麿、高坂昌利、梅津利治の3君と仙台からの風間典昭君。クラス別では9組が最も多かったが、東京方面からの友情応援が効いたもので、多謝。次いで8組。同組は来年1月の東京三六会当番で、森山和君がそちらへの参加方、力を込めて呼び掛けていた。1組も多かったが、こちらは来年の長野での当番。ご苦労様です。

開宴に先立ち、いきなり壇上に9本のアルプホルンが立ち並ぶ。壮観。低音でゆったりした音色。グリンデルワルトかツェルマットへ行ったような気分になる。この演出は地元幹事の梨本修造君が密かに練ったもの。そして同君の司会により宴は進行。冒頭の挨拶は例年どおり花岡莊太郎君。「気楽に楽しみましょう」と参加者に心配り。物故者に黙祷を捧げ、乾杯へ。小林勇生君持参の雪中貯蔵の日本酒が出され、風間祥子さんが音頭をとってくれた。風間さんは往時珍しい転校生であった。女性の参加者はもう一人みえていて、庄司由美さん。風間さんに是非会いたいと馬籠宿の家から駆けつけたという。

メインイベントは近況報告。各人それぞれだが、70歳を超えていても元気印が多く、加えて熟成の趣も漂う。最高潮に達したところで五明則保君の登場。「フレイフレイ長野」が伸びやかな美声に乗って大広間を圧した。次回当番組への引き継ぎセレモニーの後、全員が晴れ晴れと校歌を斉唱し、和気あいあいのうちに三六会は幕を下ろした。

なお、温泉泊ということもあってラウンジで開かれた二次会にも多くが参加し、会話が弾んだ。その折、徳永房和君手作りの各種、田舎風つまみが場を和ませてくれた。

追記：9年前、9組が本会の当番だった際は中沢茂治君が大いに活躍してくれた。今回も頑張ろうと楽しみにしていた彼だが、一昨

年春、忽然として世を去った。東京36会に出席して僅か2カ月後のことである。癌であった。惜しい人を亡くした。(小林一志)

高17回 卒業50周年記念同期会

幹事クラス5組有志が本年度の同期会について、平成27年9月27日(日)、会場は長野ホテル犀北館と決定。8月中旬に案内ハガキを投函した。

当日、北海道、首都圏、関西等から、そして地元を含めて70余名+恩師宮本久吉先生をお迎えして50周年記念同期会を開催した。5組幹事団の指揮で写真撮影・物故者に黙祷を捧げた後、乾杯！特別な企画としないで「力を持って余している参加者が忌憚のない心の発露の機会とする」ことを目標とした。

お元気な宮本久吉先生から戦時中のお話もお伺いしながら遠来の同期生がクラスごと、あるいはサークルごとに輪となり思い出話や体調、孫の話で盛り上がっていく。しかし、最近逝去された旧友のご家族からその旨の返信があったことも報告された。

お互いの元気なことに感謝しつつ、出席者の近況報告をクラスごとに行うこととした。出席者一人ひとりが近況を述べて座は一段と盛り上がっていく。そして、「山また山」を高らかに歌い上げ、次回幹事クラス6組へ引き継いで散会とした。その後、親しい仲間たちがそれぞれ二次会へ流れる中、ホテル玄関で高2回卒の大先輩と遭遇、お元気な姿に一同びっくり。感激の締めとなった。(佐藤友治)

長中45回A 最後の総会

数年前の申し合わせで、総会は米寿まで続けることにして進めてきた。今年度が米寿に当たることから最後の総会を、恩師湯本幸江先生をお迎えして遠来の会員5名を含め総勢19名で、9月30日(水)にホテルメトロポリタン長野で開催した。

昭和15年に移転新築された校舎への最初の入学生であった我々は、戦時色の進展により、学校生活以外の多彩な労働に携わってきた。つまり2年生の1週間は万座温泉で笹の実採集の作業をしたのははじめ、飯綱高原の開墾やストーブ用の薪運びを毎年数回、4年生の1週間は菅平牧場の整備作業、5年生になっての1カ月は木曽の発電所ダム工事の作業、続いて8月から名古屋近郊の軍需工場での武器の生産作業に卒業まで従事した。そして、卒業式は昭和20年3月27日に工場近隣の国民学校で、在校生代表一人の参加のもとに校長先生から卒業証書をいただいた。

このような戦時下の特異な体験が、卒業70年を経た現在も思い出



高17回



されて懇親会も盛り上がり、最後に「山また山」を声高らかに斉唱して、名残りを惜しみながら散会した。

(幹事 松橋俊夫 平瀬久吉 宮岡憲一)

春の美声を張り上げた。あっという間の2時間が過ぎ去り散会した。

後期高齢者世代入りを前にして皺と白髪が増えたとはいえ、互いの無事と気力の若さを再確認できた同期会であった。「ホームルームの時間」は、同級生同士の密なる交流の場になったと、評判がよかったことは嬉しい限りである。自身、家族の病気などで残念ながら欠席との返事を寄せた人も多く、これまで以上に身につまされる思いを感じた同期会でもあった。

(小林 紘)

東海支部総会

平成27年10月28日(水)に名古屋市金山のレストランで、長野高校同窓会東海支部の総会が開催されました。前回の開催から4年が経過しており、久しぶりの開催となりましたが、現役の大学生から高校9回生まで30名が出席し、旧交を温めました。

今回は、高22回でプロのギタリストである篠原正志さんをお招きし、「禁じられた遊び」、「アルハンブラの思い出」、「スペインのクリスマス」などの名曲演奏がありました。酒宴の途中でも要望に応じて演奏していただきました。ご自身の出演している番組のDVDを全員にプレゼントしていただくなど、秋の夜長を素敵な音楽で満喫することができました。

談話の中で、長野高校卒業生には、他にも多士済々の音楽家や芸術家があり、講演だけというより、文化や芸術の香りがする集いも良いものだという意見が出されました。そんな覚えのある方々に、次回以降お声がかかるかも知れませんが、その折には是非ご快諾ください。講演料は出ませんが、歓迎・歓待します。

今回の出席者の特徴は、初めてこの会に出た人が多かったこと、女性の参加者が多かったこと、ゲストの関係で高22回が多数出席していただいたことなどです。本部にお願いして、手持ちの名簿を修正していただいたことが役立ちました。お祝いをいただいたことと合わせてお礼申し上げます。

高12回 卒業55周年記念同期会

会場、ホテル国際21は平成27年10月25日(日)午後、55年前と変わらない熱気溢れる元金鶏健児達の歓声で包まれた。大沢久人先生、山岸堅磐先生には、都合で出席できない旨連絡をいただいたが、全国から集った同期生106名、5年ぶりの嬉しい再会だ。最新版同期生名簿も配られ、友の消息、安否を確認する姿は皆真剣だ。

恩師7名と同期生77名の冥福を祈る物故者法要は、9組の雲照寺宮川義典住職が導師を務め、全員で般若心経を唱え焼香した。物故者名が老師により厳かに読み上げられる間、彼等の在りし日の姿、ともに過ごした貴重な時間を想い起こし、目頭が熱くなった。

記念写真撮影後、組単位に車座で行う「ホームルームの時間」となり、近況報告、情報交換等を密に行うことができた。

15時、大懇親会が始まった。會津三郎同期会実行委員長は挨拶の中で、「これまで同期の集いごとに積み重ねてきた互いの熱い思いを更に大切に、60周年記念同期会には元気で再会しよう」と力強く宣言した。山口市から駆けつけた田澤輝武君の乾杯に始まり、丸テーブルを囲み、思いきり美酒に酔い、久々の話が弾み中、宴会終盤、武村宏一郎君先導で「南下軍」をはじめとする応援歌、エールそして轟貞幸君指揮の校歌「山また山」へと格調高くつづき、全員力一杯青





東海支部

2年後の再会を期して散会しました。皆様のご多幸を願っています。
(幹事代表 高24回 和田 肇)

高23回 定時制同窓会

○開催日：平成27年11月3日(火)

○場 所：料理屋 乙妻(おとつま)

○今回の主たる開催目的：

小林義直さん、長野市議会議長就任激励会

(6回目の連続当選を勝ち取り、更に長野市議会の議長に選出されました)

職歴：J R長野総合車両センター(旧：国鉄北長野運転所)に入社し、長野市議会議員に立候補、初当選。以降、継続第6回目当選を果たし、今回、長野市議会議長に立候補し当選を果たした。

○同窓会の主な開催履歴など

私共、高23回定時制同窓生は、昭和46年3月卒業以降、京都旅行・お花見・酷暑撲滅会・忘年会など…適宜開催し、担任の先生にもご出席していただき、8人～20人位の規模で開催してきた。東京に住居を構えている天台宗の住職の同窓生は、「時々長野に出かけるのは楽しみ!!」と言っている。また、お酒が飲めなくなっても「お花見」に参加していただいた故斎藤先生には心よりお悔やみを申し上げる。

今回も、長年「招集指示連絡役」を進んで担っていただいている小川氏の声掛けにより、原哲夫先生のご出席をいただ

いて「同窓生 小林義直氏 長野市議会議長 就任 “経過報告及び激励会”」を開催した。宴終盤には、全員で立ち輪になって肩を組み「長野高校校歌」斉唱で涙腺が緩むこととなった。

小林長野市議会議長には健康に留意され、市議会と長野市民の幸福に繋がる市政のカジ取り役を期待するところである。

今後と同窓会を通し、自然環境・社会環境が大きく変わる中で、多くの悩みの解決方法や未来へのあるべき社会哲学を語り合い、かつ行動し合って年齢を重ねていく決意である。(西澤繁和)



高23回



回期別対抗ゴルフ・コンペ

同窓会主催のゴルフコンペが9月26日(土) 長野カントリークラブにおいて、70名参加のもと新ペリア方式で開催されました。成績は下記の通りです。

- 個人優勝 青木 厚雄(高12) グロス91 ネット71.8
- 個人2位 西村 博行(高19) グロス78 ネット72
- 個人3位 青木 幹彦(高23) グロス88 ネット72.4
- 団体優勝 高12(青木厚雄・轟弘義・青木彬純)
- 団体準優勝 高19(西村博行・金子廣章・田原敏明)
- 団体3位 高20(菊池敏文・野池廣美・秦昇司)
- 団体4位(高23)／団体5位(高24)／団体6位(高6)
- 団体7位(高10)／団体8位(高27)／団体8位(高22)
- 団体10位(高25)／団体11位(高4)／団体12位(高11)



市民大学事業特集

Science Cafe

金鶏会館サイエンスカフェ開催される

今年度のサイエンスカフェは、PTAの後援を得て多くの皆さまに参加していただき、毎回50～60名程の人数となり、活況を呈しました。講師の先生方には、お忙しい中ご協力を賜りまして、あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

同窓会がなぜサイエンスカフェなど市民大学事業をやるのかと思われる方もいらっしゃると思いますが、長高金鶏会は国の登録有形文化財である旧校舎（金鶏会館）を単に維持・管理するだけでなく、有効活用してこそ残す価値があるものと考え、生徒の学習室に利用したり、池田満寿夫ギャラリーを設けたり、市民大学事業などで地域文化に少しでも貢献しようというコンセプトで取り組んでおります。どうか今後ともご理解の上、ご協力のほどお願い申し上げます。

第1回 大日方純夫先生(高21回) 早稲田大学教授 10月10日(土)

演題 どこまで「日本」？—唱歌「螢の光」から考える

唱歌「螢の光」の3番まで紹介され、「螢の光」が、近代「日本」のナショナリズムの形成にどのように関わっているのか、また、朝鮮や中国でこの歌がどのような意味を持って歌われたのかなど興味深い内容をわかりやすくお話ししていただきました。



第2回 澤田弘崇先生(高47回)

JAXAはやぶさ2プロジェクト

主任開発員 10月17日(土)

演題 長野とつながる惑星探査の世界—はやぶさ2の目指すもの

はやぶさはなぜ、わざわざ丸くない形をした「イトカワ」を目指したのか、はやぶさ2がめざす惑星「リュウグウ」には生命起源の謎が隠されているかもしれない、などワクワクするようなお話に楽しい時間を過ごしました。



第3回 竹内整一先生(高17回) 東京大学名誉教授 10月31日(土)

演題 現代日本人の死生観—「今、いのちがあなたを生きている」論

「私」が「自分の命」を生きているという近代的な自己中心の考え方ではなく、「いのち」が「あなた」をあるいは「自分」を生かしているのだという考え方を教わり、古典から現代までのさまざまな文学作品などを引用されながら、難しい哲学を大変わかりやすくお話ししていただきました。



古代史講座

公開講座

主催：科学研究費補助金(基礎研究(S))「日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充」研究プロジェクト

協力：一般社団法人長野教育文化振興会、

於 金鶏会館大講義室

続・古典を読む—歴史と文学—「いま明かされる古代」シリーズ35

第1回 8月1日(土)

東京大学 史料編纂所 画像史料解析センター・中世史料部門 准教授 金子 拓 先生
「それぞれの大阪の陣」—「勝ち組」の事情—

第3回 8月22日(土)

金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 古畑 徹 先生
「貞素の旅」—唐・渤海・日本を往復した渤海僧—

第5回 9月5日(土)

弘前大学 人文学部 国際社会講座 講師 武井 紀子 先生
「古代国家の財政システム」—租税の生産から納入まで—

第2回 8月8日(土)

愛知大学 文学部 人文社会科学 教授 山田 邦明 先生
「上杉謙信の個性」—書状を読み解く—

第4回 8月29日(土)

金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 吉永 匡史 先生
「日本古代国家と軍事力」—東アジアの視点から—

第6回 9月12日(土)

東京大学 史料編纂所 前近代日本史情報国際センター 教授 鴨川 達夫 先生
「信濃をめぐる戦国武将たち」—入って来た者、出て行った者、通り過ぎた者—

続・古典を読む—歴史と文学—「いま明かされる古代」シリーズ36

第1回 10月24日(土)

大垣市教育委員会 文化振興課 文化財専門官 中井 正幸 先生
「三野の原像を古墳から読み解く」—昼飯大塚古墳の調査と活用から—

第3回 12月5日(土)

成蹊大学 文学部 国際文化学科 准助教 有富 純也 先生
「古代神社社殿の成立」—律令国家の宗教政策—

第2回 11月7日(土)

京都大学名誉教授・前人間文化研究機構 機構長 金田 章裕 先生
「古代の東大寺領荘園」—条里プラン・国司・地元有力者—

第4回 12月19日(土)

京都女子大学 文学部 史学科 准助教 告井 幸男 先生
「信濃上代史序説」—氏族・国造制・部民制—

寄 贈 図 書



大金言
渡辺一夫氏(長中40回)寄贈



水彩画展Ⅲ (栄村編) 画集
著者 田中誠喜氏
(高1回)



断片—横道人生 うたとつれづれに
著者 金井正元氏
(高5回)



ペンを剣に！ 羅府のサムライ記者が見た世界
著者 倉島 晃氏(高10回)
小山泰子氏寄贈



医療・福祉の総合情報誌 JAPAN MEDICAL SOCIETY
2015年6月号～11月号
野村元久氏(高10回)寄贈



ザ・黒板
黒板の基礎知識から活用のワザ、電子黒板まで
著者 加藤昌男氏(高13回)



やさしく物理 一カ・熱・電気・光・波一
著者 夏目雄平氏
(高17回)



オートボイエーシスとしての近代学校—その構造と作動ボタン—
著者 北村和夫氏(高19回)



教師人生一生懸命無我夢中 生き生き生きる生き方 自分の思うようにやればいい
編者 小山信二氏(高22回)



夢路往く
著者 上原照章氏
(高24回)



総力ガイド！ これからの経済学 マルクス、ビケティ、その先へ
宮澤和俊氏(高33回)共著



昇と美智子—音楽への情熱。長野青少年少女合唱団の発展—
著者 鈴木 央氏(高34回)

ご寄付をいただきました。

●SGHにご寄付をいただきました。

- ◆高3回の皆様より 3万円
- ◆高7回の皆様より10万円
- ◆高18回の皆様より20万円
- ◆高19回の皆様より10万円
- ◆高22回有志の皆様より
7万1,000円
- ◆市役所金鶏会の皆様より
6万5,136円
- ◆個人より

50万円	1人
10万円	4人
5万円以上	11人
1万円以上	209人
1,000円以上	1,098人



●同窓会にご寄付をいただきました。

- ◆高27回卒業40周年の皆様より30万円
卒業生への記念品や在学生の海外研修(SGH関連)の支援等にに使わせていただきます。
- ◆高14回7組の皆様よりご寄付をいただきました。



ありがとうございました。

長野高校吹奏楽班OB・OG第47回定期演奏会

日 時 平成28年3月27日(日)
13:30 開場 / 14:00 開演
会 場 ホクト文化ホール 中ホール 入場無料
曲 目 P.チャイコフスキー／
バレエ音楽「くるみ割り人形」ファンタジー
A.リード／エル・カミーノ・リアル
M.ラヴェル／管弦楽のための舞踏詩「ラ・ヴァルス」ほか
皆様のご来場をお待ちしております。

平成27年度同窓会費(2,000円)のご送金をお願い致します。

今年度会費未納の方に改めて振込用紙を同封いたしました。
ご協力をお願いいたします。

送金方法

- ①同封の振込用紙を使う
→手数料は事務局負担になります。
- ②インターネットバンキングやATMによる振込
→手数料を引いてお振込みいただいてもけっこうです。振込人氏名に回期をご記入ください。

池田満寿夫ギャラリー

金鶏会館では池田満寿夫(高4回)の作品を50点余り、常設展示しております。ぜひ、ご覧にお越しください。
(平日14時～17時、それ以外の時間は予めご連絡ください。)



結婚相談

ご希望の方は申し込み用紙を電話またははがきでご請求ください。
年齢、性別、学歴等は問いません。

TEL.026-235-3822 長野市上松1-16-12 長野高等学校同窓会 結婚相談室



- 平成28年度同窓会総会は6月25日(土)ホテル国際21において開催します。当番回期は高33回・高45回・高57回の皆様です。よろしくお願いします。
- 長野高校野球班が新人戦で長野県ベスト4と健闘し、春の甲子園(第88回全国選抜高等学校野球大会)の21世紀枠長野県推薦校に選ばれました。今後、北信越の代表・全国からの代表3校に選ばれるか、期待したいと思います。